

妖怪は、目には見えないからこそ、
時代ごとの科学やAI等のデジタル技術、
絵画やアニメーションによって目に見えるような形で表現されてきました。
本シンポジウムでは、さまざまな分野の専門家の意見を交えながら、
妖怪の存在がどのように変化しつつあるかを提案します。

妖怪×デジタル・サイエンス

……不可視のものを可視化する営為

開催概要

日時：2024年5月9日(木) 18:30～21:00(18:00開場)
会場：帝京大学霞ヶ関キャンパス(千代田区平河町森タワー9階)
参加費：無料
定員：60名 ※申込みが定員を超えた場合、千代田区民の方は追加受付します。
主催：帝京大学外国語学部国際日本学科、冲永総合研究所
後援：千代田区
申込み：Peatixにて無料チケットの入手が必要です(会員登録無料)。

QRコードから
Peatix 申込み
画面にアクセス
できます。

※電話申込みも可



地下鉄有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」4番出口より 徒歩約1分
地下鉄銀座線・丸ノ内線「赤坂見附駅」7番出口より 徒歩約6分

プログラム

- 18:30～18:40
学科長挨拶 藤森 弘子 (帝京大学外国語学部国際日本学科 教授)
趣旨説明・登壇者紹介
渡部 瑞希 (帝京大学外国語学部国際日本学科 講師/文化人類学)
- 18:40～20:00 話題提供 (各20分)
 - ①「妖怪図鑑の誕生」
香川 雅信 (兵庫県立歴史博物館 学芸課長/民俗学・文化人類学)
 - ②「妖怪を描く技法と工夫—国際的な視点から」
マット・マイヤー (妖怪絵師・妖怪研究者)
 - ③「ウイルスと鬼—『鬼滅の刃』を事例に」
武村 政春 (東京理科大学教養教育研究院 教授/ウイルス生物学者)
 - ④「妖怪はどこに宿るか」
—デジタルテクノロジーが可視化するその拡張的なイメージ—
松本 健太郎 (獨協大学外国語学部英語学科 教授/デジタル記号論)
- 20:10～21:00 パネルディスカッション・質疑応答
「デジタル・サイエンスは妖怪の存在をどのように変えるのか?」
モデレーター：渡部 瑞希

